



● 違いを越えて、想いをつなぐ ～私たちの2020～

—— 福岡県人づくり・県民生活部スポーツ振興課

## 福岡県の事前キャンプ誘致活動

福岡県では、ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等の大規模国際スポーツ大会を契機としたスポーツの振興と地域の活性化を目指すため、これらの大会の事前キャンプ誘致に取り組んできました。このキャンプ誘致の活動が実を結び、10月11日現在、県内12の市町で28の国・地域が来年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプを行うことが決まっています。

この事前キャンプ誘致活動において欠かせない役割を担っているのが、スポーツ振興課で2015年8月から任用しているイギリス出身の国際交流員（CIR）のグリフィス・ゲイル・ルイズさんです。グリフィスさんは、キャンプ誘致のプロモーションや相手国との交渉段階においては主に通訳や翻訳の業務を担い、そして、キャンプ誘致の段階が実際のテストキャンプや強化キャンプの実施段階に移行してからは、相手国と市町をつなぐコーディネーターとして活躍しています。

キャンプ誘致の交渉における困難の1つは、交渉相手が海外のオリンピック委員会や競技団体であることから、日本人であれば当たり前に通じる常識が通じないことです。グリフィスさんは、通訳の専門家でも、スポーツの専門家でもありませんが、双方が気持ちよく意思疎通で



ノルウェーオリンピック委員会との協議（左側の手前から2人目がCIR）

きるように、国際交流員として交渉の前には専門用語や相手に関する情報のチェックを怠らず、時に夜遅くまで職員の仕事に付き合いながら、いつも完璧な準備をしてくれます。

そんなグリフィスさんの仕事に対する姿勢や、仕事の完成度の高さに対する職員の信頼は厚く、他課からも翻訳の依頼が舞い込むことがあります。



ONOC 事務総長会にてプレゼン（右から5人目がCIR）

## オセアニア諸国の事前キャンプ

福岡県は県内の4市町（柳川市、みやま市、みやこ町、築上町）とともにONOC（Oceania National Olympic Committees オセアニアオリンピック委員会）の事前キャンプを受け入れることが決まっていますが、これは、複数の市町が協力して複数の国・地域のキャンプを受け入れるという全国でも珍しい取り組みです。

オセアニア諸国は、経済的にも、スポーツにおいても、およそ大国と呼べる国・地域ばかりではありません。施設や設備等の練習環境が整っていない小さな国・地域の選手たちが、自国では受けられないような高いレベルの指導を福岡県で受けながら、東京オリンピックの舞台を目指すという点もこのプロジェクトの特徴です。このため、2017年12月に事前キャンプ実施の合意を締結し

その後、断続的に選手たちが強化キャンプのため本県を訪れていますが、このONOCのキャンプのコーディネートを行っているのもグリフィスさんです。

「初めてオセアニアの選手たちを受け入れた時、日本で指導が受けられるまたとない機会を自分の成長につなげようと必死に練習に取り組む選手たちの姿に胸を打たれ、何

とか彼らの力になりたいと思った」と話すグリフィスさん。「オセアニアの選手に限らず、海外の選手たちが慣れ親しんだ環境と異なる場所で、安心して競技に取り組むためには、日本人にはない視点で日本のことを語る自分にこそできることがあると思う」とも語ります。実際に、キャンプを受け入れる際には、選手一人ひとりに丁寧に寄り添う姿がとても印象的です。



オセアニアの選手たちと（左端がCIR）



スポーツ子ども国際会議でファシリテーターとして活躍（奥がCIR）

## 2020年に向けて

来年はいよいよ日本でオリンピック・パラリンピック競技大会が開催される年。私たちスポーツ振興課にとっても、グリフィスさんにとっても、集大成の年といえます。

4年に1度のオリンピック・パラリンピック競技大会に懸ける選手たちの想い、福岡県で事前キャンプを行った選手たちが、最高のコンディションでオリンピック・パラリンピック競技大会に臨めるようにと願う、市町の



太平洋島嶼国サミットにて、ソロモン諸島首相と（右端がCIR）



庁内の対抗駅伝にも参加！（右から2人目がCIR）

担当者の想い。そして、選手たちの最高のパフォーマンスを楽しみにしている県民の想い。

さまざまな想いをつなぐ存在として、グリフィスさんは2020年も活躍してくれるはずです。